

## 第37回（2020年度）若手研究者のための健康科学研究助成受贈者一覧

a. 指定課題（10件、一律100万円を助成）

（五十音順・敬称略）

氏名	所属	研究テーマ
赤澤 暢彦	国立スポーツ科学センター スポーツ研究部	メンタルコンディションとフィットネスパフォーマンスを繋ぐ脳科学的機序の解明
伊藤 祐規	大阪大学大学院 医学系研究科	脳-筋連関の観点から捉えた運動による認知症発症予防効果に関わる分子メカニズムの同定
井上愛沙子	九州歯科大学 歯学部	運動機能と認知・記憶機能の向上を目指したうま味受容体を基軸とする脳-腸-骨格筋連環の解明
井上 浩輔	カリフォルニア大学ロサンゼルス校 公衆衛生大学院	身体活動量低下がうつ状態を介して、心血管死亡を引き起こす因果メカニズムの解明—因果推論における機械学習の応用—
桑水 隆多	筑波大学大学院 人間総合科学学術院	運動によるメンタルヘルス増進効果は「目」から予測できるか？
笹井 浩行	東京都健康長寿医療センター研究所 自立促進と精神保健研究チーム	コロナ禍における都内在住高齢者の運動・栄養・社会参加の変化と認知機能低下の関連—2019～2022年の4時点データを用いた縦断研究—
諏訪部和也	流通経済大学 スポーツ健康科学部	気分と認知機能を改善する就寝前ストレッチ運動プログラムの開発
樽味 孝	産業技術総合研究所 人間情報インタラクション研究部門	脳老廃物除去システムに対する加齢及び一過性有酸素運動の影響
角田 憲治	山口県立大学 社会福祉学部	地域在住高齢者における活動的移動の許容距離は、認知症発症、要介護化の予測因子となり得るか？—一市の悉皆調査に基づく長期追跡研究—
山下 琢矢	神戸学院大学 薬学部	軽度認知障害の運動介入による改善メカニズムの解明—脳内Exosome解析を切り口とした新たなアプローチ—

b. 一般課題（10件、一律50万円を助成）

氏名	所属	研究テーマ
阿部 紀之	千葉大学大学院 医学薬学府	地域在住フレイル高齢者における社会参加と要介護認定、死亡との関連—6年間の縦断研究—
安在 絵美	奈良女子大学 生活環境学部	膝関節機能評価のためのマルチモーダル歩行評価システムの開発と地域在住高齢者を対象とした実証研究
池戸 葵	愛媛大学プロテオサイエンスセンター 病態生理解析部門	スポーツによる相対的エネルギー不足(RED-S)による骨髄間葉系幹細胞機能変容の解明
坂本 幸平	国際医療福祉大学 医療福祉学部	AIと健康情報等のビックデータを活用した生活習慣病の重症化予防モデル作成と特定保健指導に有効な健康指数の開発に関する研究
佐々木亮樹	アデレード大学 医学部	加齢によって変化する運動関連脳内ネットワークの特定と強化
谷川果菜美	大阪大学大学院 医学系研究科	小児と母親の身体活動度及び座位行動と骨密度との関連についての疫学研究
松石雄二郎	筑波大学大学院 人間総合科学研究科	COVID-19回復後患者における運動・生活行動障害とメンタルヘルス低下の実態と将来的支援内容の考察
矢島 克彦	城西大学 薬学部	エネルギー代謝における「脂肪酸レスポンス・ノンレスポンス」の存在明確化と特徴解明
山北 満哉	山梨県立大学 看護学部	運動・スポーツのライフコースと認知症の関連—高齢者を対象とした大規模地域コホート研究—
吉原 利典	順天堂大学大学院 スポーツ健康科学研究科	サルコペニア発症の性差を紐解く骨格筋受容体発現制御

< 選考委員奨励枠 >（3件、一律30万円を助成）※受贈課題以外から選考委員推薦による特別枠

氏名	所属	研究テーマ
松島みどり	筑波大学 人文社会系	オンラインセルフケア教室を通じた妊産婦の心の健康支援—With, Afterコロナでの健幸社会構築を目指して—
村上 慶子	東北大学 東北メディカル・メガバンク機構	新型コロナウイルス感染症の流行が未就学児の身体活動とメンタルヘルスに及ぼす影響—流行前後にわたる前向きコホート研究—
守屋 正道	東京大学大学院 新領域創成科学研究科	バーチャルリアリティ(VR)と近赤外分光法(NIRS)による客観的ストレス評価技術の研究開発

（所属は応募時のものを記載）